

## 夢は医者 安保法制に戸惑う

高校生

(大阪府 15)

7月に自衛隊の話がテレビで取り上げられていた。最近は、「実戦」を意識した訓練が導入されているらしく、若い隊員が「正直、不安は大きい。覚悟を決めて今までやってきたことを信じるしかない」などと、戸惑いを口にしていた。

安全保障関連法が成立し、将来、日本が戦争に巻き込まれないかとても心配だ。戦地に行か

ねばならないのは、政府の人間ではなく、私たち若者だ。私は医者になるのが夢だが、医療従事者も戦地にいつか行かねばならない日が来るかもしれない。

私は、戦争のない平和な世の中で、治らない病気を抱えている方たちを治療し、患者さんの心に寄り添えるような医者になりたい。そして苦しんでいる多くの人を助けたい。でも戦争によって傷つけられ、苦しむ人は見たくない。

## 亡父の喜び 戦争しない日本

医師

(福岡県 58)

父は昨秋、90歳で亡くなりました。78歳で引退するまで41年、町医者として働きました。晩年は「人は自然であることが一番大事だ」とよく言っていました。

父が子供の頃、母親と出征兵士を見送りに行く中、兵士とその母親が泣いて別れを惜しむのを近所の人たちも涙で見送っていたそうです。ところが、おめでどう、万歳と送り出すような不自然な世になり、その頃から日本はおかしくなると父は言うていました。

昨年、入院していた時、

人生で一番良かったことを

尋ねると「日本が戦争をしなくなったこと」と即座に答え、個人的な答えを期待していた私たちを驚かせました。そして「90歳で死ぬのは自然なこと。これ以上、長生きしようとは思わない。後はみんなので仲よく」と言い遺しました。

年表を見ると、父が6歳

のとき満州事変が起こり、12歳で日中戦争、17歳で太平洋戦争が始まり20歳で終戦、学業期間は戦争とともにもありました。一周忌もすまないうちに日本はまだ戦争のできる国になりました。父が生きていたら何と言ったかと考えています。